



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎047-767-5030

伊原 忠 ☎047-488-7207

飯川英樹 ☎080-1239-8132

日本共産党
八千代市議団
ホームページ

<https://jcp-yachiyo.jp>

日本共産党八千代市議団メール：kyousan@jcp-yachiyo.jp



第663号
2025年2月10日

発行
日本共産党
八千代市議会議員団
八千代市大和田新田
312-5

先生が足りない学校がもたない

「学級担任がいない」「先生が病気休暇なのに、代わりの先生が来ない」などという声が日本共産党に寄せられています。そもそもの原因は教員不足と長時間労働にあります。

八千代市では2024年12月現在の教員の未配置校は、小学校で8校、中学校で6校、合計14人です。理由は病休、産休、育休、療養休暇などです。

先生が休暇を取ったのに代替の先生が来なければ、校内で補充します。当然校内の先生は一層勤務が多忙になります。その結果、子どもの教育を受ける権利は保障されないのです。

残業代ゼロ制度をなくし教員を増やす

2022年の教員の平均勤務時間は平日で小学校教諭は11時間23分。中学校教諭は11時間33分です。教員の精神疾患による病気休養者は2000年当初は2000人ほどでしたが、2023年には7000人を超えてしまいました。まさに、長時間・過密労働によって教員の健康がむしばまれているのです。

若者の教員志望の減少は、長時間労働の教員に魅力がないからです。文科省の対策は残業代を払うのではなく、現在、公立教員給与特別措置法(給特法)による「調整手当」の名目で給与の4%分の支給が行われていますが、その手当を毎年1%ずつ上乗せして、30年までに10%支給をするという「働かせ放題」です。長時間労働を抑えるための世界的ルールは残業代制度です。ところが文科省の対策は解決になりません。

こういう残業代ゼロ制度では、過労死ラインと言われる月80時間を超える残業時間の改善につながりません。「働き方改革」を掲げているにもかかわらず、このような残業のばしは、ますます教員のいのちと健康を阻害することになりかねません。

教員の定数が少ない上に教員に求められている課題が多いために超多忙になっているのです。教員志望者が増える改善が必要です。



子どもにも教員にも安心できる学校を

かつて小中学校の教員は1日4コマの授業でした。4時間の授業をして、残り4時間で子どもの相談やノートチェックや授業準備・校務分掌などに充て、1日8時間労働を守ることができました。今は1日5コマ、6コマをこなさなければならない状況です。その改善には教員定数を増やすことなのに減らす一方です。

学校では「いじめ、不登校」等子どもたちが望んでいない状況が生まれています。子どもも先生も成績を上げる競争と規則・決まりを守る管理的な環境に追い立てられています。「誰ひとり置き去りにしない」学校にするために教員の大幅な定数増が必要です。そして少人数学級の実現です。

日本共産党は、子どもも教員も安心できる魅力ある学校づくりのために頑張ります。